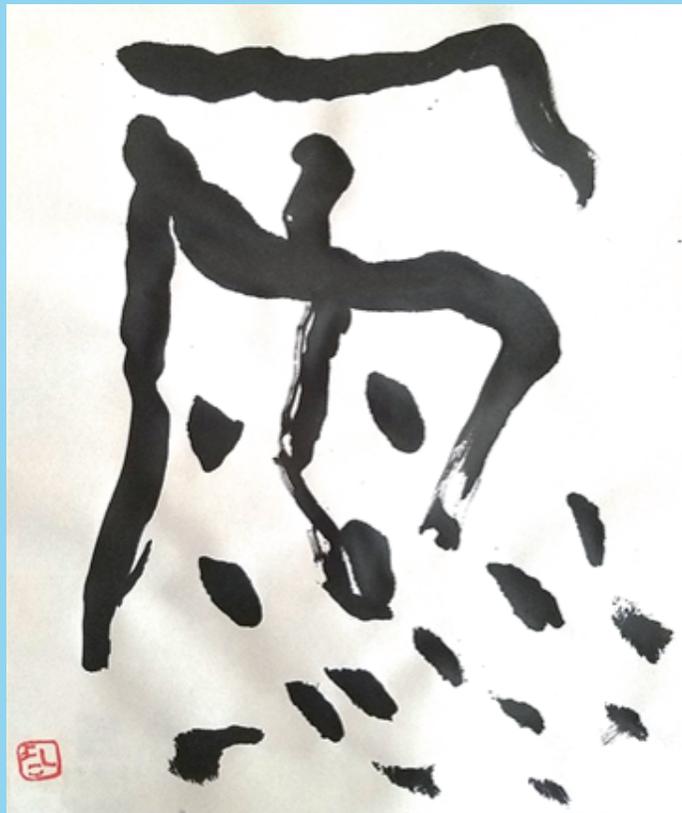


自分がどうしたいか



市川益子さんの作品

精神しょうがいのある方たちのソフトバレーボールの練習を見せていただく機会があった。私の友人がそのチームのメンバーの一人なので、彼女についていった。真夏の暑さの中、体育館で4時間の練習は半端じゃない。さすが関東大会や全国大会にも行ったことがあるチームとあって、みんな真剣だ。ボールを落とすまいと必死で追いかける。サーブもレシーブもトスも、それぞれが得意技を発揮する。4時間つき合えるだろうかと思ったが、間30分ほど私は休憩させてもらい、あとはずっと見せてもらった。面白かった。皆さんは1時間に10分程度の休憩で続いていた。彼女も生き生きと動いていた。

終わってから訊くと、苦手な練習や、どうしてもできないことがあるという。彼女はセッターをしていたが、監督に注意されていたのは何？と訊いたら、トスを上げる時に、何がしたいかわからないと言われたそうだ。それ、どういう意味？とスポーツオンチの私は訊いた。トスを上げる時にアタッカーにサインを送って、どうしてほしいかを伝えるのだそうだ。でも彼女は、ボールをとにかくあげることに必死で、そこまで一瞬で考えることが

できないという。私はびっくりした。そうか、アタッカーが決めるのではなく、セッターがそこまで考えてトスを上げるのか。そこまで一瞬で息を合わせて判断し、サインを送ってアタックやフェイントを決めるんだ。彼女は何事もまじめに一生懸命な人で、頑張り屋だが、悩みや困りごとの解決を自分の意思で決めるのが苦手だ。いつも誰かのことや相手のことを考えて、自分がどうしたいかより、相手がどう思っているかをおもんばかり、なかなか決断できない。優しさでもあるが、判断決断が苦手。好きなことをしている時だけは苦手さから開放されるのかと思いきや、そうではないのか。それはつらいなあ。

帰りの車の中で、「練習が終わると人生の孤独を感じる」とボソッと一言。一人暮らしにまだ慣れてない彼女は、楽しい時間の後の一人になる時間の寂しさがたまらない。でも頑張っている！その寂しさと何とかつき合えるようになったら、どうすべきかより、どうしたいかでバレーができるようになるかな、でもセッターはカッコよかったよ！と思って送った。(理事長 遠藤良子)

相談支援エプシロン

Tel 042-505-7021 Fax 042-505-7669

すだれで夏の装いに

4～5月と、エプシロンの仕事に加えて積み重なるままに法人内の諸業務に対応していたら、6月に入り、久しぶりに脳がギブアップした。後頭部あたりに痛みのような煮詰まったような感覚が持続し、思考力・判断力が低下。焦りと自責感も強まってきたので、これはマズイなと思い、6月の第一金曜日に半休をとって、週末にかけてしっかり休息をとることにした。

そのとき実行したのが、スマホ・タブレット禁だ。夜間に目が醒めたときにスマホで時間を確認しない、アラームも使わない、時間が知りたければ時計を見に行く。ネットニュースは見ない、SNSも見ない。天気予報が知りたければTVか新聞で。買物のスマホ決済をやめ、外出時に持ち歩かない。当然、歩数の確認もしない。毎朝の検温結果をスマホに入力することをやめ、紙に書く。ToDoをスマホに入力しない。メールの着信音がしたら、「メールがきたな。まあ、見るか」と独り言を言って、おもむろに見る(反射的に見ない)。電話でもよさそうな返信は電話をしてみる。タブレットで連続ドラマも映画も観ない。

その代わりに、散歩、読書、キーボード、料理、アイロンかけ、木彫りなどをした。小さなひまわりを買って朴(ほお)の木の角材に花の四分の一を彫

り始めたのだが、ひまわりの花びらの数についてネットで検索したい気持ちが強く湧き、1週間以上経っても消えなかったのには我ながら笑ってしまった。

その週末を終えた後も、スマホ・タブレット使用を減らすことは継続。さらに、平日は職場に自転車を置いて通勤は歩くことにし、新聞の定期購読を始めた。SNSでしか得られない情報があるので10日間ぐらいSNS断ちをしながら考えて、SNSは朝刊を読んだ流れで見ることにした。スマホ決済は復活させた。

それにしても、自分の生活の細部に、今更これだけ変えられる事柄があることに驚いた。引越す、転職する、パートナーと出会う・別れる、介護が始まる、自分や身近な人が大病する、大切な存在との死別。そのような大きな変化ではなく、「目が醒めたときにスマホを手にしなさい」といった程度の小さな行動を幾つか変えるだけでも、日常の細部に浸透して暮らし方が変わってくる。それらは表層のことなのに、「新しい自分になったみたい」と清々しさまでちょっと感じたりして。

2～3週間ほどで脳もほぼ復調した。いまの自分にとっての黄色信号も知ることができた。さて、今年はエプシロンの東向きの窓に初めてすだれをかけてみたら、ぐっと夏の装いに。1年半以上控えている日中活動先や、グループホームの訪問を、秋には再開できることを願いながら、夏の花々や虫の声、蚊取線香のにおい、夕立ち、かき氷を楽しむ夏を送りましょう。(白川)

誰もが集えるみんなの居場所(10:30～18:30日祝休み)
日中一時支援事業(15:30～土日祝休み)

たまりば宙(そら) Tel/Fax 042-843-0443

「さ・し・す・せ・そ」から!

コロナ禍が1年以上続き、たまりば宙は、宣言が発令されるたびに、営業休止しています。そのため、長らくお目にかかっている常連のお客様の顔を、時折思い浮かべては、余計なお世話よろしく、皆さん元気にお過ごしだろうか、スタッフ一同、思いを馳せています。

そんな時節柄、『免疫力が高い体をつくる「自然療法」シンプル生活』(三笠書房)という本をご紹介します。著者の東城百合子さんは、昨年94歳で亡くなられた大正14年生まれ。20代の頃、当時、死の病と恐れられた肺結核にかかって死の淵をさまよひ、「自然療法」で健康を取り戻しました。自然療法は、決して医者任せ、人任せではなく、自然に潜む無限のパワーを体の手当てに生かし、心を正すこと。病気の正体は、体を悪くするような生活習慣が少しずつ積み重なり、そこから育った枝葉なので、医者にその枝葉を切り落としてもらっても、その枝葉を育

てた根を変えないことには根本的な治療にならない、と東城さんは述べています。

自然に即した生き方から随分かけ離れた暮らし方を、本来のものに戻せば、体や心の不調も治るという考え方に共感します。自然や命に感謝して、自然な食べ物、命ある食べ物を頂くことは、当たり前なことなのに、それが難しくなっているように感じます。

忙しい毎日、何から手をつけたらいいかわからないかもしれません。面倒くさいし、予算が…という方もいらっしゃるかもしれません。それなら、まずは食から。日々使う、さ=砂糖、し=塩、す=酢、せ=醤油、そ=味噌、油等の調味料を、化学調味料や食品添加物の入っていない有機のものに変えることから始めることをお勧めします。(中西)



放課後等デイサービス

くじらっこ

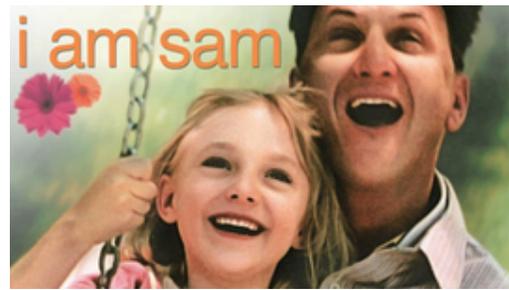
Tel/Fax 042-505-4661

利用者さんと 過ごす時間

4月より、くじらっこに異動してきました、一之木です。昔から子どもと遊ぶことが好きだったので日々、利用者さんと共に過ごす時間がとても楽しいです。それと同時に利用者さんがより良く成長できるためには、今の私の支援は正しいのか、いつも試行錯誤しています。利用者さんはもちろん、一緒に働いているスタッフからも、信頼してもらえるように、自分の行動に責任を持って一人の「人間」として成長していきたいと思っています。

くじらっこに異動することになり、私は、ある一本の映画を思い出し、自宅で観ることにしました。「アイ・アム・サム」という映画で、主人公のサムは娘のルーシーと一緒に過ごしているのですが、サムは知的しょうがいがあり7歳程度の知能しかありません。

ルーシーは、周りの人から父親のことを馬鹿にさ



れることがあり、なにか物足りなさを感じていました。そして、ルーシーが8歳になり、父親の知能を超えると、児童相談員らの手によって里親に出されてしまいます。しかし、離れて暮らすことによって、サムが自分を心の底から愛していることに気づき、また二人で暮らす道を選びます。

この映画を観て、私自身、足りないところや変えていかなければならないところはたくさんありますが、「利用者さんと過ごす時間が好きだ。楽しい!」と思う気持ちだけは忘れずにいたいと改めて感じました。

一日、一日を大切に過ごしていきたいと思っています。(一之木)

居宅介護等事業・訪問介護事業 くじらハウス 短期入所 おにぎり

Tel 042-505-7034

Fax 042-505-7035

スポーツバイクに乗る理由

中学から大学まで、ずっと自転車通学をしてきました。社会人になってからも、通勤経路には何かしら自転車区間を含むことが多く、今に至っていません。

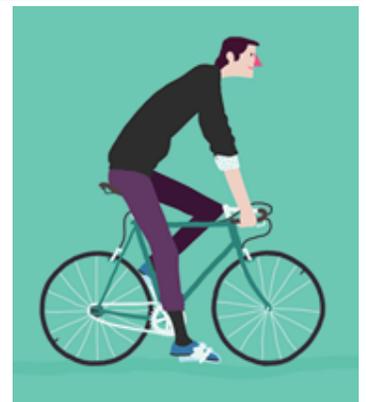
今乗っている自転車はスポーツバイクと言われるもので、クロスバイクとロードバイクを使い分けています。ロードバイク、といえばゴリゴリにマッシュョでストイックに自分を追い詰める的なイメージを持たれる方が多いと思います。が、それとは別に「そうじゃない」乗り方もあることを多くの方に知って頂きたいと常々思っています。

そもそも、私が日常的にスポーツバイクに乗る理由は、「とにかく楽をしたい」からで、ストイックとは真逆な動機です。車体が軽くパワーロスが少ないため、同じ距離を移動するなら、多分「ママチャリの半分以下」の労力で済むと思います。

また、このタイプのものはスピードも出せますが、実は「とことんゆっくり走る」ことも得意です。なんなら「歩き始めの幼児さんに歩調を合わせて走る」こともできます。(というか、普段使いの日常場面では、このくらいのスピードで歩行者に配慮しなくてはいけない場面が多々あります。これをママチャリでやるとなると、かなりのスキルが必要かと。)

「ポタリング」とって、ゆっくり走るジャンルがあり、近年、認知度が上がっています。自分も自転車の楽しみ方の一つとして、「輪行」と言って、車体を一部分分解して、袋に詰めて電車に乗り、現地で組み立てて好き勝手走る、ということをやっています。距離を稼ぎたいときは、それなりのスピードで移動しますし、ルートや時間の使い方の自由度が高いことが魅力かなと、思っています。

いろいろと走ってみたい場所はあるのですが、コロナ禍が明けたら行ってみたいところといえば、今のところ「瀬戸内しまなみ海道」が一番でしょうか。愛媛県の今治から広島県の尾道まで島々を橋で繋ぐ60数kmの行程です。10年程前に一度行ったことがあります(この時は現地で車体をレンタル)、身体がまだ丈夫なうちに再訪しておきたいところです。空と海と島しか見えないような橋の上を、自転車で疾走する爽快感は一度味わってしまったら忘れられません。このコロナ禍がいつになったら明けるのか、悩ましいところですが、チャンスがいつ来ても対応できるように、とにかく健康で体力の維持には気をつけていこうと思っています。(相沢)



ミラハウス

地域であたりまえに
生きる

4月からミラハウスで勤務しております宮澤有里です。かいゆうに来る前には、いろいろなところで福祉の仕事をしてきました。身体しょうがいの方の在宅支援アルバイトから入り、数年のブランクを経て入所施設、生活介護、グループホーム、重度訪問介護・移動支援コーディネーター（というのには名ばかりで、実際にはほぼ毎日のように現場を飛び回っていました）等をやってきました。基本的に、座っているよりも動き回ることが好きです。最初に福祉の仕事を選んだきっかけは、「人が生きること」を手伝う仕事に対する興味だけだったと思います。福祉の知識も全くなく、右も左もわからない状態から始めた当初は、泣いたり笑ったり、悔しかったり嬉しかったり、たくさん感情が目まぐるしく自分の中を通り抜けていく毎日でした。自分だけでは経験不可能な質や量の「人が生きること」を、利用者さんと共に働く人たちと一緒に過ごすことで経験出来ていることに気づいた時には、すでにこの世界の楽しさから抜け出せなくなっていました。

ところで、私が細々と続けている趣味の一つに、山歩きがあります。若干風変わりかもしれませんが、出来るだけ平日に、休日でも出来るだけマイナーなところを選ぶことが多いです。人とほとんど会わないような道を数時間一人で歩いていると、言い知れぬ開放感もありますが、正直とても心細くなります。たまに獣の臭いや、風とは明らかに違う葉の揺れる音等を感じ取ってしまうと、急激に恐怖感に襲われることもあります。

そもそも、なぜ山に行くのかが自分でもよくわかりません。始めた頃は、単に運動不足解消が目的でした。早起きの苦痛、歩いた分、神経を張り詰めて

いた分に比例して持ち帰るであろう疲労感、一人で最後まで歩き通すために必要な荷物の重さ、野生動物への恐怖感等々、こんなに辛いことばかりなのに、なぜまた来てしまった？などと、歩き始めて20分程で毎回自問自答が始まります。一人で長時間歩き続けたことのある方はご存じかと思



いますが、その最初の脳内の自問自答が、身体の疲労度が増してくる頃には嘘のように消えていき、ほぼ何も考えなくなるのです。ものを考えるのがもう面倒だな、ここで死にたくなかったら黙って歩くしかないんだな、程度のことしか浮かばなくなってくるのです。そして数時間の後、無事人里へ出ると、今度は、お腹空いたな、帰ったら何食べようかな、のみです。全身疲労困憊しており、もうこんな辛いことは今日で最後だ！などと思ったりもするのですが、心だけは妙にすっきりしているのです。そしてほとぼりが冷めると、また地図を広げて次の計画を練ってしまうのです。

福祉の仕事は「感情労働」と言われる側面もあります。誰でも気づかぬうちに心が疲弊していく可能性があるそうです。心が整っていない状態だと、自分のことも、人のことも、大切にすることが難しくなってきました。心を整える方法が、私にとっては山歩きなのかもしれません。できればもう少し楽な方法はないかな、とも思いますが。

とりとめのない文章となりましたが、少しでも私の人となりを知って頂けたら幸いです。どうぞよろしくお願ひします。(宮澤)

メン・ド・歩人 これな～に?!

歩人の隣には、くじら工房さんの畑があります。玄関にある窓から、いつも「廃品あるよー」と声をかけていました。歩人の車輛を送迎で貸し出すようになり、玄関で立ち話をするが増えました。「今年もズッキーニの花が咲いたね〜。」「いや〜、でもズッキーニは難しいのよ、ちゃんと受粉しないと実がならず腐っちゃうの〜。」「ちゃんと受粉してるか確認お願いしますよ〜。」と…。

ズッキーニは雄花と雌花があり、ちゃんと受粉しないと実がならず、毎年失敗していたそうです。玄関の窓から、たまに観察するものの、受粉しているのやら…と、根もとを見ると、何やら見慣れぬ形のズッキーニが出来てきているじゃないの!?

「今年はUF0ズッキーニにしてみたのよ〜。」UF0ズッキーニ!?早速畑に見に行くと、沢山あかちゃんズッキーニが実っています。「大きくなったら1つあ

げますよ〜。」の約束を取りつけ、しばらくすると冷蔵庫の野菜室にありました!UF0ズッキーニ。さっそくグループホームにて実食。サラダで生でもOK、炒めてもGoo。癖がなく美味しい野菜です。



ズッキーニは、お花も食べられるそうです。

「美味しかったよ〜。」「本当?宙で販売の予定だけど、売れ残ったら持ってきますね〜。」「買うよ買うよ〜。」「…それっきりということは、完売しちゃったってことですね。うれしいけど、ちょっぴり残念。

※工房さんの野菜は、たまりば宙で不定期販売中!!ぜひお試しください。(小野)

はじめの一步ハウス

お祝いポスターつくったよ！

落ち着かない日々が続きますが、一步ハウスのみなさんは風邪を引くことも少なく元気に過ごされています。

先日、2名の方のお誕生会に向けて、いつもはスタッフが作ることが多かったお祝いポスターを、今回は他の入居者の方に作成をお願いしたところ、とても素敵なものができたので、みなさんにもぜひ見てもらいたいと思います！誰が描いたかわかるかな？（坂野）



とれいる フェルマーからの挑戦状

私は先日、以前から気になっていた1冊の本を購入しました。それは、『フェルマーの最終定理』という本です。なぜ、これが気になっていたかという、某お笑い芸人のYouTubeを見たのがきっかけです。

この本の最大のテーマは、とある1つの数学の問題を解くというシンプルな内容です。しかし、フェルマーは、この問題の一部分を解き、その一部分の解説を書き残したまま、この世を去ってしまう。そして、その続きがあたかも挑戦状のように残ってしまった。そこで、挑戦状のように残った問題を解くのに、何十人という数学者が挑戦したものの、誰1人として答えを導き出すことが出来なかった。

が、ようやく、ある1人の数学者が答えを導き出す。しかし、この問題が解けたのは、解説を書き残してから3世紀後のことであったという事実。

私が読んだのは、ここままで、ここから先の展開は、私自身も非常に気になっていて、今は、休日になれば、この本を読むのが日課です。（草刈）



すうえる 背中を押されて

はじめまして。5月から、すうえるに入職しました大植と申します。

福祉の仕事は未経験だったのですが、以前から興味があり、私の姉も福祉の仕事をしていたので、いろいろと相談をして、「大変だけど、とてもやりがいがあるからやってみたら」と背中を押してもらい、この仕事に挑戦することにしました。

実際に働いてみると利用者さんと、なかなかうまくコミュニケーションがとれなかったり、どう支援したらいいのかわからず戸惑ったりと、大変なことも多いですが、利用者さんの笑顔を見たり新たな発見があると、とてもやりがいを感じています。これから少しずつ距離を縮め、信頼関係を築いていければと思います。

まだまだ経験が浅いので、先輩方にいろいろアドバイスをもらいながら、利用者さんに寄り添える支援員になりたいと思いますので、よろしく願います。（大植）

来歩ハウス まさかのペアルック！



6月某日、たまには公園でも行こうかと、郷土の森へ。当日は、ご実家迎えでしたが、まさかのペアルックのような服装！ピンクのTシャツが、満開の白いあじさいに映えて、何枚も写真を撮っていると、ため息をつかれてしまいました（笑）。Yさんは園内を歩行し、普段と違う景色に、心なしか足取りも軽いうでした。（川鍋）

この人に聞く

齋藤 悠太さん
(来歩ハウス)



愛犬のココアちゃん

泉のニューフェイス

上司である川鍋さんに「かいゆうだより原稿お願いします」と言われ、「どうしょーとなっております」と聞き、突然ですが!!インタビューをしに行きました。(インタビュアー 小野)

—「福祉」の仕事をしたかったきっかけは何ですか？

実は持病がありまして…。今は完治していますが、てんかんだったんです。小学校から中学まで数カ月学校に行っては数カ月入院を繰り返して、1年トータルで学校に行けたことはありませんでした。高校は、しょうがいがある人と、ない人が一緒に学べる学校に入り、発作の対応もしてくれていたのを通うことが出来ました。高校2年になった時、発作がひどくなり、手術することになって、静岡で手術をしました。その、入院の時の看護師さんの対応を見て、福祉方面に就こうと思ったんです。

—YMCAを選んだ理由は何ですか？

国立生まれの国立育ちというのもあったんですが、歴史のある学校ですし、何校か見学に行きましたけどYMCAがやっぱり先輩も多いし、いいなあと思って入学しました。

—在学1年生から、かいゆうでアルバイトをされたそうですが、大変と覚えることはありましたか？

コミュニケーションが苦手で、あまり言葉が出て

こない利用者さんの支援の工夫が大変です。今も変わらずそうですね…。

—くじらハウスから来歩ハウスへの異動については？

ハウスの永井さんに、ここを気に入って入ってくれたけど、かいゆうの中にもいろいろな部署があると説明されて、たくさん利用者さんに関わりたくて、すぐに返事をしました。抵抗はありませんでしたし、実際に来てみて、とっても楽しいです。

—最近の来歩ハウスでの支援のエピソードは？

来歩ハウスのKさんのお散歩の支援に入った時、歩くのがとても速いKさんに「ばいばーい。」と手を振ったら「ばいばいやだー。」と手を握ってくるんです。思わず「キュン」としてしまいました。

—最後に、これからの抱負をお聞かせ下さい

グループホームに配属されてまだ夜勤を1人で任されていません。まずは夜勤が出来るように、が目標です。

◆インタビューを終えて

今回は、突然のオファーにも関わらず、快く応じて頂き、1時間ほどお話を聞かせて頂きました。

赤裸々にお話頂いたこと、感謝致します。

てんかんの手術後、学校に戻った時、もう、しょうがいが無くなったと急に「こんなこともわかんないのか!!」と手のひらを返したような対応をされ、部活の顧問からも厳しいトレーニングを強いられ、太ももの炎症で二週間入院をし、嫌になって学校をやめて、通信の高校に移ったという話もしてくれました。それでも人間不信にもならず、人が好きな気持ちを失わずに福祉の仕事に就いている。とても大らかさを感じましたし大いに期待を感じました。

これからも楽しんで仕事ができるように、環境を整えて行きたいと思いました。

生活介護事業所

くじら工房 ウェルフェア トレードって？

Tel/Fax 042-843-3450

しょうがいしゃの社会参加とやりがいを促すという「ウェルフェアトレード」の理念を掲げ、中央線沿線のしょうがいしゃ事業所が集まって生産品を販売するイベント「ウェルフェアトレードフェスタ」に、くじら工房も参加する予定でした。昨年度の秋から企画が上がり、商品のブラッシュアップに努めたり、「ウェルフェアトレード」という考え方についてメンバーとも理解を深めたりして準備して参りました。しかし、度重なる延期。それでも増していくコロナの脅威。なんとか安心できる形で参加できないかと試行錯誤をしてみたけれども、とうとう辞退する決断に至りました。

「ウェルフェアトレード」とは「主体性」を大切に

することが重要とされています。なので、参加を決めるときも、辞退するときも、とにかくみんなで話し合うことを意識しました。イベントは辞退しましたが、この理念について学び、活かすことができたのはいい経験になりました。みなさんも、ぜひ「ウェルフェアトレード」という言葉について検索してみてください♪(家村)

お知らせ

ウェルフェアトレードの理念にのっとり、くじら工房の刺繍の布巾の価格について見直しをしました。これまで200円だったのですが、400円(3枚で1000円)とさせていただきます。くじら工房では、以前より、売上分から材料費を引いた額がメンバーのボーナスとなっております。値上がりした分がメンバーへ還元できればと考えております。値上げをお願いする分、より一層心を込めてお作りして参りますので、ご理解よろしく申し上げます。

学生時代の経験は財産

みなさま、はじめまして。この度、社会福祉法人かいゆうの監事に就任致しました、岸水友佑と申します。かいゆうと私とのつながりですが、遡ること20年。学生当時、国立五日制の会の活動だったかと思いますが、ボランティアとしてお手伝いをさせて頂いておりました。

また、一步ハウスの入居者や、スタッフのみなさまと出場した「山中湖ロードレース」完走の感動は、今でも心に残っております。

あれから長い年月が経ち、この度の監事就任のお話を頂きまして、かいゆうでのお手伝いを再開できると思うと嬉しい反面、身の引き締まる思いが致します。

私は日頃、国立市内で税理士事務所を経営しております。税理士の仕事は、お客様との出会いから始まり、その専門的な知識や経験を基に「お客様のニーズに応える」べく、サービスを提供しております。

この「お客様のニーズに応える」という意識や感覚は、学生当時のボランティア経験が今に活かしているように感じております。当時、利用者のみなさまの気持ちを伺うために試行錯誤し、そのニーズに応えるために、成功や失敗を繰り返しながらお手伝いしていた経験が、現在の私の財産になっています。

このような貴重な経験をさせて頂いたことに感謝しつつ、今後は、微力ではございますが、かいゆうの発展の一助たるべく誠心誠意努力致しますので、何卒よろしく願い申し上げます。

(岸水友佑 かいゆう監事)

広報委員の
おすすめ
イベント!

幸せな最期とは何か 現代医療が見失ったもの 高橋伴明監督作品を中心に今をみつめる

9/4・5(土・日) アグレアブル・ミュゼ(国立駅北口徒歩4分)

9/20(月・祝) 商協さくらホール(国立駅南口徒歩2分)

14時～「痛くない死に方」上映後、
監督 & 立川在宅ケアの伊尾和雄先生 対談あり!

痛くない死に方 高橋伴明監督 2021 112分

9/4 18時～ 9/5 10時～ アグレアブルミュゼ
9/20(月祝) 14時～ 商協さくらホール→対談あり

けったいな町医者 毛利安孝監 2020 116分

9/4 14時～ 9/5 18時～ アグレアブルミュゼ
9/20(月祝) 10時～ 商協さくらホール

道一白磁の人 高橋伴明監督 2012 118分

9/4 10時～ 9/5 14時～ アグレアブルミュゼ
9/20(月祝) 18時～ 商協さくらホール

入場料
大人 1200円
学生 1000円

くにたち映画館

要予約 042-577-7353 ・ kunitachieigakan@gmail.com

サービス休止のお知らせ

9月26日(日) 職員全体研修のため、お休みします。

ご迷惑をおかけします。



facebook

見てね!

ホームページ



編集後記 「くにたち映画館」というイベントを、国立市内で、5月から毎月2日間、編集子は有志で開催しています。かつて市内には「スカラ座」という映画館がありました。「国立に映画館をふたたび!」をモットーに、観終わった後、誰かと語り合いたくなる、そんな珠玉の作品を上映します。会場のアグレアブル・ミュゼは、そこに身を置くだけで癒される素敵な空間。10月以降のラインナップもご期待ください!(な)

★職員の入退職者★

入職
津村 裕司 2021. 6. 1

退職
上原 一輝 2021. 6. 30